

平成26年12月19日

北栄町議会
議長 井上 信一郎 様

北栄町議会産業建設常任委員会
委員長 飯田 正 征

産業建設常任委員会調査報告書

本委員会は、次の事件について先進地の調査を終了したので、会議規則第77条の規定により調査結果を次のとおり報告します。

記

1 調査事件

(1) 地産地消の取り組みについて

調査地	フレッシュパークからり (直売所)	愛媛県内子町
	さいさいきて屋 (直売所)	愛媛県今治市

(2) 食と農のまちづくり条例について

調査地	愛媛県今治市 (産業部)	愛媛県今治市
-----	--------------	--------

2 調査期間 平成26年10月28日 (火) ~ 29日 (水) の2日間

3 調査結果及び所感

【調査結果】

・フレッシュパークからり（直売所）

株式会社を創立し、指定管理者で運営

販売実績：5年間平均 約7億1,000万円（内、農産物4億円）

内子町産にこだわり、内子町の住民が町内で栽培した生産物のみ出荷可能となっている。食の安心安全にもこだわり、トレーサビリティーの導入・特別栽培農産物等認証制度を設けている。

直売所の敷地内は景観を生かした公園的なつくりとなっていた。

・さいさいきて屋

越智今治農業協同組合が運営

販売実績：22億5,000万円（平成23年度、全国4位）

地元野菜・果実・精肉・穀物・鮮魚類・加工品（地元農産物を活用したジュース、ジャム等）など様々な地元商品を販売している。施設内に食堂・カフェを併設して、地元農産物を活用した食事や旬の野菜やフルーツをたくさん使用したジェラート・フレッシュジュースが販売されている。また、学童農園では、毎月1回小学生を対象にしたさいさいキッズクラブが開催されている。（田植え・サツマイモ植え・田んぼや水路の生き物調査など、農業体験や食育推進）

・今治市

地産地消、食育、有機農業の推進を3本柱にまちづくりの基本理念を構築し、「食と農のまちづくり条例」が制定された。

（条例が期待するもの）

- ・地域の農林水産業者に元気になってもらいたい。
- ・市民や子ども達に今治の食を食べてもらい、地域の農林水産業を支えてもらいたい。
- ・遺伝子組み換え作物の栽培の抑止 など

地産地消課では地産地消と食育を同時に進めており、市民農園では農薬を使用禁止とするなど、義務食育、生涯食育、地産地消が町民に広がっている。

【所感】

北栄町も地産地消のこだわりとして、規制（遺伝子組み換え作物栽培抑止、市民農園での農薬使用禁止など）を検討してみてもどうか。また、「食育」と「農業」をマッチングさせた取り組みなど見習うことが多かった。

直売所に併設されている食堂やカフェなどでは、直売所の野菜を活用したメニューが提供されていた。単独に施設を作るのではなく、全町公園化も含めて総合的に計画するべきと感じた。